

厚狭駅南口駐車場事業経営戦略 改定版

団 体 名 : 山陽小野田市

事 業 名 : 駐車場事業

策 定 日 : 令和 3 年 3 月

改 定 日 : 令和 6 年 3 月

当 初 計 画 期 間 : 令和 3 年度 ~ 令和 12 年度

改 定 後 計 画 期 間 : 令和 6 年度 ~ 令和 15 年度

1. 事業概要

(1) 事業形態

法適（全部適用・一部適用） 非適の区分	法非適用	事業開始年月日	平成11年3月13日
職 員 数	4人（兼務）	施 設 名	厚狭駅南口駐車場
種 類	届出駐車場	構 造	広場式
立 地	駅	建設後（建替後）の経過年数	25 年
駐車場使用面積	2,500 m ²	収 容 台 数	190 台
営 業 時 間	24時間		
民間活用状況	ア 民間委託	維持管理業務、保守業務を民間委託	
	イ 指定管理者制度	導入予定無し	
	ウ PPP・PFI	実施予定無し	

(2) 料金形態

営業時間 区分	午前0時～午後12時		
基本駐車料金	1時間以内 無料、1時間を超え2時間まで 100円 2時間を超え4時間まで 200円、4時間を超え12時間まで 300円 12時間を超え18時間まで 400円、18時間を超え24時間まで 500円 24時間を超える場合6時間毎に100円を加算		
定期駐車料	4,000円/月		
プリペイドカード ()は利用可能額	1,000円 (1,100円)	3,000円 (3,500円)	5,000円 (6,000円)
料金形態の考え方	経営状況や周辺の駐車場の料金等から総合的に判断し、設定している		
料金改定年月日 (消費税のみの改定は含まない)	平成28年4月1日		

(3) 現在の経営状況

別紙1「経営比較分析表(令和4年度)」のとおり

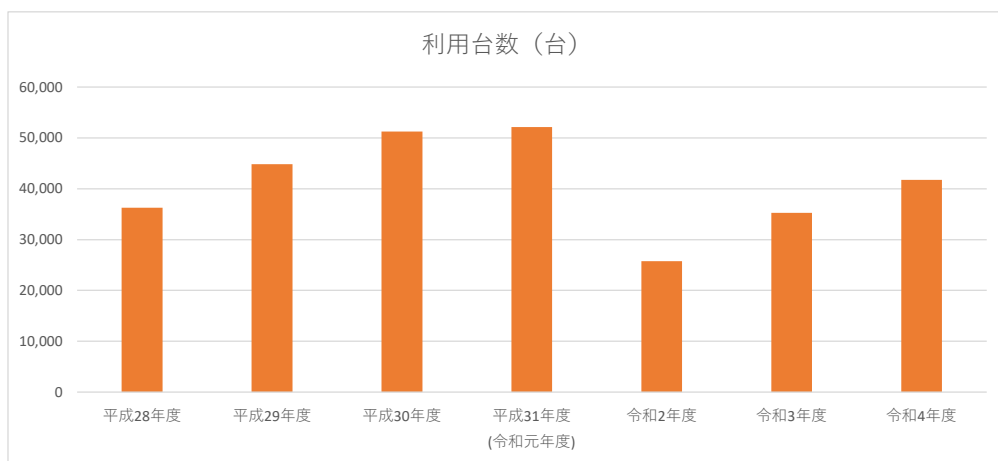
2. 将来の事業環境

(1) 駐車場需要の見通し

平成11年3月に開業した山陽新幹線厚狭駅利用者のために整備した駐車場で、通勤通学や旅行などを目的に山陽小野田市や近隣自治体などが利用している。事業を開始して以来、平成22年の二級河川厚狭川氾濫や令和2年の新型コロナウイルス感染症流行による緊急事態宣言が発出された特定の年を除くと概ね利用台数は右肩上がりに推移していることから、今後も安定した需要が見込まれる。

平成28年度(料金改定後)からの利用台数の推移

年度	利用台数 (台)
平成28年度	36,285
平成29年度	44,861
平成30年度	51,263
平成31年度 (令和元年度)	52,162
令和2年度	25,781
令和3年度	35,273
令和4年度	41,783

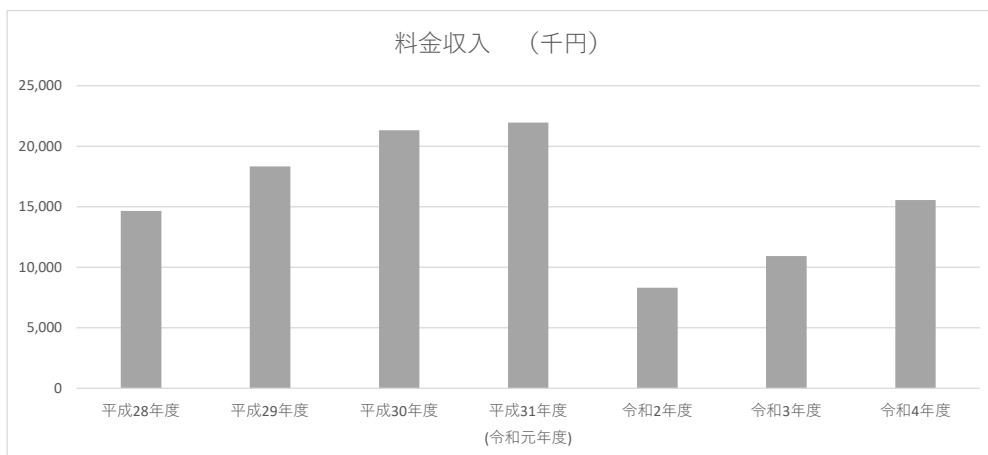


(2) 料金収入の見通し

料金収入は、平成28年度に駐車料金を改定して以来、平成31年度（令和元年度）まで増加したが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行により減少した。その後は安定して料金収入が増加し、令和5年度は料金改定後もっとも収入のあった平成31年度（令和元年度）まで回復する見込みである。駐車枠に限りがあるため、著しい料金収入の増加は見込めないが、外的要因等が無い場合、安定した料金収入が見込まれる。

平成28年度(料金改定後)からの料金収入の推移

年度	料金収入 (千円)
平成28年度	14,668
平成29年度	18,352
平成30年度	21,344
平成31年度 (令和元年度)	21,951
令和2年度	8,315
令和3年度	10,926
令和4年度	15,553



(3) 施設の見通し

計画期間において次の改修事業を実施予定である。

- ・未舗装部分舗装事業 (令和7年度 事業費:50,000千円)
- ・高齢者及び障害者等利用通路設置事業 (令和8年度 事業費:5,000千円、令和9年度 事業費:30,000千円)
- ・精算機更新事業 (令和11年度～ 事業費:6,600千円/年)
- ・舗装リフレッシュ事業 (令和14年度 事業費:30,000千円、令和15年度 事業費:30,000千円)

(4) 組織の見通し

専任職員がおらず、現在は特別会計に人件費を計上していない。しかし、毎週の料金収納や定期駐車料の更新などの事務を要することにより、令和12年度からを目標に会計年度任用職員に対しての人件費を計上予定である。

3. 経営の基本方針

・経営基盤の強化

駐車場経営について分析を行い、経営改善を実施し安定経営を目指す。

・満足度の高いサービスの提供

隣接駅の駐車料金設定や利用者のニーズを適切に把握し、駐車場の利用促進を図り、収入の増を目指す。

・安心安全な施設の維持

定期的な施設の点検・修繕を行うとともに、耐用年数の経過した設備等を更新し、利用者が安心して安全に利用できるよう駐車場施設の維持に努める。

4. 投資・財政計画（収支計画）

- (1) 投資・財政計画（収支計画）：別紙2のとおり
(2) 投資・財政計画（収支計画）の改定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

目 標	・継続した安定経営のため、計画的に施設改修を実施していく
-----	------------------------------

施設の利便性向上のため、未舗装部分の舗装や障害者等専用駐車場からの動線において雨に濡れないための通路設置を計画している。

また、建設後25年が経過しているため、施設各所に経年劣化が見られる。特にアスファルト舗装については、駐車場として経営していくための基盤施設であることや原価償却資産の耐用年数が10年と定められているため、計画的な改修が必要となる。

② 収支計画のうち財源についての説明

目 標	・料金収入による安定経営を図る
-----	-----------------

本特別会計は、一般会計からの繰り入れをせず、料金収入で運営している。今後の運営についても一般会計からの繰り入れをしないよう計画的な投資に努め、安定経営を図る。

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

支出の抑制、経費の削減、サービスの向上に努め、安定経営を図る。
駐車場機器類の賃貸借及び維持管理業務を民間委託している。契約期間は平成30年11月から令和6年10月までであるが、その後も引き続き民間委託により実施する予定である。

(3) 投資・財政計画（収支計画）に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

① 今後の投資についての考え方・検討状況

民間活用	検討の予定なし。
駐車場の配置の適正化	検討の予定なし。
投資の平準化	修繕箇所や設備投資をすべき箇所については、精査することで計画的な投資を行う。
その他の取組	該当なし。

② 今後の財源についての考え方・検討状況

料金	駅利用者の増進を目的に近隣の駐車料金を考慮し、安価な料金設定としている。料金の値下げ等は現在考えていないが、今後も近隣駐車場の状況を見ながら検討していく。
利用者増加に向けた取組	当駐車場は、新幹線利用者の駐車が主であるため、比較的長時間の利用となる傾向がある。回転率が上がらないため、稼働率を上げていく取組にも限界があるが、その分限られた料金収入で過大な投資を行わないよう、施設整備は計画的に実施している。
企業債	現在、企業債は無く、今後も企業債を要する見込みはない。
繰入金	現在、繰入金は無く、今後も繰入金を要する見込みはない。
資産の有効活用等による収入増加の取組	検討の予定なし。
その他の取組	該当なし。

③ 投資以外の経費についての考え方・検討状況

委託料	維持管理・保守業務を民間に委託し、効果的に運営する。
管理運営費	検討の予定なし。
職員給与費	現在、職員給与については計上していないが、今後は特別会計の業務に対して、給与が支払えるよう検討する。
その他の取組	該当なし。

5. 公営企業として実施する必要性など

事業の意義、提供するサービスの必要性	厚狭駅（新幹線、在来線）利用者等の駐車場需要に対し、安定的な駐車スペースの供給を図る施設となっている。
公営企業として実施する必要性	厚狭駅（新幹線、在来線）利用者の利便性及び厚狭駅南部地区の交流人口増加を目的とする。

6. 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

経営戦略の事後検証、改定等に関する事項	経営比較分析表を活用しながら進捗管理し、3年から5年を目途に経営戦略の事後検証・更新を実施していく。
---------------------	--

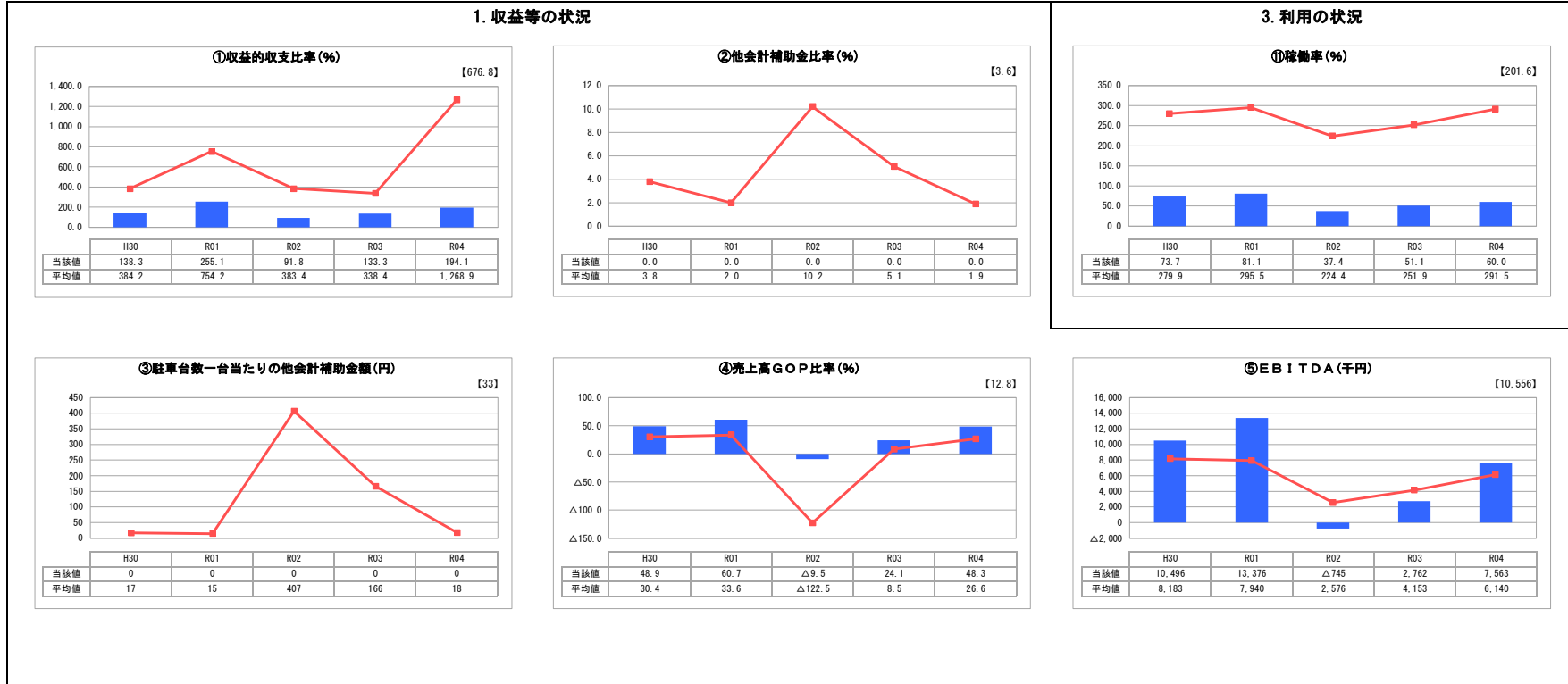
経営比較分析表（令和4年度決算）

山口県山陽小野田市 厚狭駅南口駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A3B1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	届出駐車場 附置義務駐車施設	広場式	23	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
駅	無	2,500
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
190	100	無

グラフ凡例	
■	当該施設値(当該値)
—	類似施設平均値(平均値)
[]	令和4年度全国平均



2. 資産等の状況

⑥有形固定資産減価償却率(%)

該当数値なし

年次	H30	R01	R02	R03	R04
当該値					
平均値					

⑦敷地の地価(千円)

135,789

⑧設備投資見込額(千円)

27,546

⑨累積欠損金比率(%)

該当数値なし

年次	H30	R01	R02	R03	R04
当該値					
平均値					

⑩企業価値高対料金収入比率(%)

年次	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均値	83.1	54.4	70.3	70.0	47.6

分析概

1. 収益等の状況について
 当駐車場は、一般会計からの繰り入れをせず、料金収入で経営しており、経営状態は安定している。「収益の収支比率」、「売上高GOP比率」及び「EBITDA」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に著しく減少したが、令和4年度については、人の動きが多くなったことによる収益の増加や支出を抑えたことが要因となり、数値が増加した。

2. 資産等の状況について
 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に著しく収入が減少したが、令和4年度に至り回復基調にある。これにより、収入について安定する見通しが立ったため、駐車場施設の更新投資の計画を再度見直し、計画的な設備投資に努める。

3. 利用の状況について
 当駐車場は、新幹線利用者の駐車が主であるため、比較的長時間の利用となる傾向があり、回転率が上がらないため、稼働率を上げていく取組にも限界があるが、その分限られた料金収入で過大な投資を行わないよう、施設整備は計画的に実施している。令和4年度に至る「稼働率」については、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いたこともあり、微増ながら増加している。

全体総括
 当駐車場は、収入の回復により、安定的な経営を維持している。この経営状況を維持するため、今後は、これまでに計画していた未舗装部分の整備や経年劣化による施設改修について、計画的に実施していく必要がある。

